

元会長 故 小川 克郎先生を偲んで



小川克郎先生（ご子息の小川暁生様提供）

元地質調査所
大久保泰邦

小川克郎先生、謹んでご冥福をお祈り申し上げますと共に、先生との思い出を書かせていただき、ここに哀悼の意を表したいと思います。

小川先生は長らく川崎市の介護施設で病氣療養中でしたが、慢性腎不全のため2022年6月13日にお亡くなりになりました。享年83歳でした。

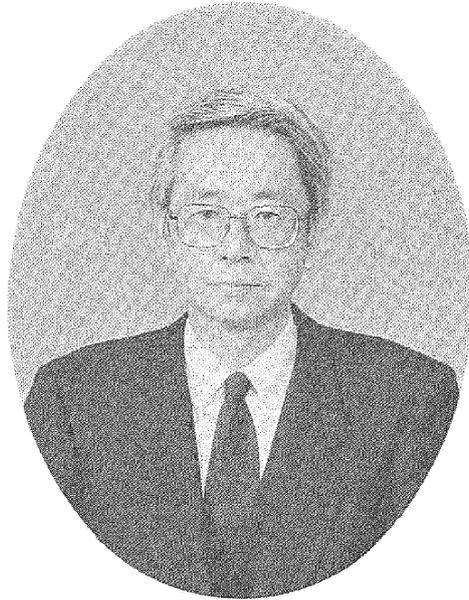
先生は物理探査学会において、1985年から2003年まで理事、1990年および1991年に副会長、1992年と1998年に会長を務められています。1978年には「線

形法による全磁力断面の自動解析」で物理探査学会論文賞を受賞されました。1989年に40周年記念行事として実施した“図解物理探査”の発刊に際しては編集委員長をされました。また1998年の50周年にあたっては、50周年記念行事特別委員会委員長として“物理探査ハンドブック”の発刊にご尽力されました。2009年には名誉会員になられています。

小川先生は名古屋大学理学部地球科学科を卒業され、1964年に同大学大学院理学研究科修士課程を修了され、通商産業省工業技術院地質調査所（当時）に入所されました。1972年には名古屋大学より理学博士号を取得されています。地質調査所時代では、空中磁気探査をはじめとする物理探査の研究で功績を挙げられました。当時は地球科学分野では物理探査屋とか地質屋などのグループがあり、それぞれの専門ごとに分かれて研究を行っていました。しかし先生は、物理探査のみならず地質学にも精通され、物理探査データを使った地質構造の解析も行われていました。そのご研究は「磁気構造と地質構造」（地調月報、1979、v30、p. 549-569、https://www.gsj.jp/data/bull-gsj/30-10_02.pdf）などで発表されています。これは私どもにとって大きな刺激となり、新しい研究分野を与えていただきました。

先生の幅広い経験に基づいて、石油ショック以来開始された国家プロジェクトの地熱資源開発において日本をリードされました。当時新しい手法であるキュリー点調査、広域重力調査、リモートセンシングを中心とした全国地熱資源総合調査を先導され、全国の地熱資源量を評価されました。この結果は現在においても、国の地熱資源開発政策の基礎データとなっています。

1991年6月には地質調査所所長に就任されました。先生は気さくな方で、所長になってからも研究活動に専念されていました。元AGU会長であるCarol Finn博士（当時地質調査所招聘研究員）とともに、所長室の床に広げた磁気図を前に大激論をされていたことを覚えております。



1991年所長就任時代の小川先生（地質ニュース（1991、444号）より）。

1994年には所長を退任され、名古屋大学理学部教授に就任されました。大学においても精力的に活動され、名古屋大学大学院環境学研究科の初代研究科長に就任されています。2001年の創刊された名古屋大学大学院環境学研究科の広報誌「KWAN(環)」で、小川先生の論文を拝読することができます。

<https://www.env.nagoya-u.ac.jp/kwan/index.html>

2002年には名古屋大学名誉教授に就任され、名古屋産業大学に移られ、その後同大学の副学長に就任されました。さらに2009年に春の叙勲、瑞宝中綬章を受章されました。

2008年には長野県蓼科に移住され、地球温暖化についての研究などさまざまな研究を行われました。テレビや新聞は地球温暖化ありきで議論されますが、先生は元データに遡り疑問を持って解き明かすという真の研究者でありました。研究の成果についてメディアからインタビューを受けた様子が、今でも以下のサイトで閲覧することができます。

<https://iwj.co.jp/wj/open/archives/146579>

以上のように、小川先生は、気さくな性格であり、データに遡って真相をつきとめる研究者であります。たくさんの研究者が私と同様に先生をお慕いしています。

わたくしは、地質調査所に入所以来ずっと研究の指導をしていただきました。心より感謝するとともに、突然のご逝去に対し、心よりお悔やみを申し上げる次第です。